

石綿（アスベスト）分析結果

【試料名】

ひる石吹付け

【採取場所（採取部位）】

県営鳴海住宅 0-1号棟 1階 103号室 既存部 天井

【分析方法】

JIS A 1481-1 偏光顕微鏡によるバルク材中のアスベストの定性的判定方法

JIS A 1481-3 アスベスト含有率のX線回折定量分析方法

注記1 分析対象アスベスト種：クリソタイル、アモサイト、クロシドライト、トレモライト、アクチノライト、アンソフィライト

注記2 JIS A 1481-3による定量分析は、JIS A 1481-1による定性分析の結果、“アスベスト含有”と判定された場合に行う方法であり、アスベストが含有していない場合、または定性分析のみのご依頼の場合は行わない。

【分析方法の概要】

①JIS A 1481-1によるバルク材中のアスベストの定性的判定方法の概要

アスベスト繊維の同定は、基本として次の分析順序で行う。

- a) 目視により試料全体をよく観察する。必要に応じて繊維を剥離又は分離する処理を行う。
- b) 調製した試料又は未処理の試料を目視と実体顕微鏡で詳細に観察し、試料の種類や前処理の必要性の有無を確認する。前処理が必要な場合は適切な前処理を行う。
- c) 次に、試料を実体顕微鏡で観察し、アスベストの可能性のある繊維を探して代表的なものを取り出し、PLM（偏光顕微鏡）用の標本を作製する。
- d) 標本をPLM（偏光顕微鏡）で観察し、形態、光学的性質からアスベストの同定を行う。
- e) この手順でアスベストが検出されなかった場合、又は試料から実体顕微鏡で確認できる大きさの繊維が見つからなかった場合は、無作為に分取した試料を用いてPLM（偏光顕微鏡）用の標本を作製し、実体顕微鏡では見えない微細なアスベスト繊維を探す。

②JIS A 1481-3によるアスベスト含有率のX線回折定量分析方法の概要

”アスベスト含有”と判定された場合、予想される含有率に応じて、一次分析試料を直接用いるか、定量用二次分析試料または定量用三次分析試料を作製して基底標準吸収補正法を用いたX線回折定量分析方法によって求め、アスベスト含有率を算出する。

※参考として、参考資料1にJIS A 1481-1の分析フローを、参考資料2に偏光顕微鏡によるアスベスト分析写真（例）を示す。また、参考資料3にJIS A 1481-3の分析フローを示す。

【測定結果】

アスベスト含有の有無	アスベストの種類	アスベスト含有率 (%)
アスベスト含有せず	—	—

注記1 アスベスト含有の有無の判定結果の詳細は、【定性分析結果の詳細】に示す。定量分析を行った場合は、その詳細を【定量分析結果の詳細】に示す。

注記2 定量分析を行わなかった場合は、アスベスト含有率の欄に「—」を示す。

【定性分析結果の詳細】

分析実施日	平成30年2月28日
分析者	石川 輝之

注記 JIS A 1481-1 は、市販製品中のアスベストの定性的分析に言及している。

この手法においては、分散染色と併用した偏光顕微鏡検査がアスベスト同定の既定手順である。

含有率約 5%未満の範囲におけるアスベストの含有率の正確な定量がアスベスト含有建材の法規制上の位置付け決定のために必要である場合は、JIS A 1481 規格群の別のパートを利用する。

分析結果

試料	アスベスト	推定アスベスト含有率 (%)
ひる石吹付け ひる石	無検出	—————

注記 1 推定アスベスト含有率は次の 5 区分で示す。

なお、この区分は概数であって、結果を説明する場合の目安として記載したものであり、特に③～⑤の含有率の範囲は、定量分析を行った結果、必ずその範囲に入ることを保証するものではない。

- ①無検出
- ②検出
- ③0.1%～5%
- ④5%～50%
- ⑤50%～100%

注記 2 報告区分”検出”は、分析中に繊維が 1 本又は 2 本だけ検出された場合、この観察は試料の意図しない汚染の結果であったおそれもあるため、結果報告の手段として設けられたものである。

注記 3 ”アスベスト含有”の場合、観察されたアスベスト繊維の代表的な写真を次頁に示す。

注記 4 使用した偏光顕微鏡：ニコン ECLIPSE LV100N

前処理法	酸処理、浮遊沈降
非アスベスト繊維	セルロース
コメント	特になし。

【試料採取履歴】

採取年月日	平成30年2月16日		
建材名称	ひる石吹付け		
建物、配管設備、機器等の名称及び用途	名称	県営鳴海住宅 0-1号棟	
	用途	吹付け材	
施工年及び建築物への施工などを採用した年	1967（昭和42）年竣工		
建物などの採取部位及び場所	採取部位	既存部 天井	
	場所	1階 103号室	
試料の概要 (形状又は材質、試料の大きさ)	形状又は材質	粒状	
	試料の大きさ	1cm ³ ～1000cm ³ ×1	
採取者氏名	一般財団法人 東海技術センター 岡崎・水野（範）		

注記 上記事項は、依頼書に記載された情報に基づき記載し、記載がない場合、「－」を記載した。



分析結果報告書

東海技水第 17121835-004 号

平成 30 年 3 月 6 日

愛知県建設部建築局公営住宅課

様

計量証明事業 愛知県知事登録 第262号
一般財団法人 東海技術センター
理事長 平井 修司
名古屋市名東区猪子石二丁目7-10番地
TEL (052) 771-5161(代) 〒465-0021

出張採取	(平成 30 年 2 月 16 日受入)		
試料の種類	吹付けロックウール		
採取場所	県営鳴海住宅 0-1号棟 1階 103号室 既存-増築取合部 天井裏		
採取日時	平成 30年 2月 16日	12時 35分	天候
採取者名	一般財団法人東海技術センター 岡崎、水野 (範)		

上記試料に対する分析結果を次のとおり報告します。

分析対象	単位	分析結果	備考
1 石綿定性 (以下余白)	—	別紙参照	

[備考] 件名：県営鳴海住宅始め3住宅実施方針等検討業務

石綿（アスベスト）分析結果

【試料名】

吹付けロックウール

【採取場所（採取部位）】

県営鳴海住宅 0-1号棟 1階 103号室 既存-増築取合部 天井裏

【分析方法】

JIS A 1481-1 偏光顕微鏡によるバルク材中のアスベストの定性的判定方法

JIS A 1481-3 アスベスト含有率のX線回折定量分析方法

注記1 分析対象アスベスト種：クリソタイル、アモサイト、クロシドライト、トレモライト、アクチノライト、アンソフィライト

注記2 JIS A 1481-3 による定量分析は、JIS A 1481-1 による定性分析の結果、“アスベスト含有”と判定された場合に行う方法であり、アスベストが含有していない場合、または定性分析のみのご依頼の場合は行わない。

【分析方法の概要】

①JIS A 1481-1によるバルク材中のアスベストの定性的判定方法の概要

アスベスト繊維の同定は、基本として次の分析順序で行う。

- a) 目視により試料全体をよく観察する。必要に応じて繊維を剥離又は分離する処理を行う。
- b) 調製した試料又は未処理の試料を目視と実体顕微鏡で詳細に観察し、試料の種類や前処理の必要性の有無を確認する。前処理が必要な場合は適切な前処理を行う。
- c) 次に、試料を実体顕微鏡で観察し、アスベストの可能性のある繊維を探して代表的なものを取り出し、PLM（偏光顕微鏡）用の標本を作製する。
- d) 標本をPLM（偏光顕微鏡）で観察し、形態、光学的性質からアスベストの同定を行う。
- e) この手順でアスベストが検出されなかった場合、又は試料から実体顕微鏡で確認できる大きさの繊維が見つからなかった場合は、無作為に分取した試料を用いてPLM（偏光顕微鏡）用の標本を作製し、実体顕微鏡では見えない微細なアスベスト繊維を探す。

②JIS A 1481-3によるアスベスト含有率のX線回折定量分析方法の概要

”アスベスト含有”と判定された場合、予想される含有率に応じて、一次分析試料を直接用いるか、定量用二次分析試料または定量用三次分析試料を作製して基底標準吸収補正法を用いたX線回折定量分析方法によって求め、アスベスト含有率を算出する。

※参考として、参考資料1にJIS A 1481-1の分析フローを、参考資料2に偏光顕微鏡によるアスベスト分析写真（例）を示す。また、参考資料3にJIS A 1481-3の分析フローを示す。

【測定結果】

アスベスト含有の有無	アスベストの種類	アスベスト含有率 (%)
アスベスト含有せず	—	—

注記1 アスベスト含有の有無の判定結果の詳細は、【定性分析結果の詳細】に示す。定量分析を行った場合は、その詳細を【定量分析結果の詳細】に示す。

注記2 定量分析を行わなかった場合は、アスベスト含有率の欄に「—」を示す。

【定性分析結果の詳細】

分析実施日	平成30年2月28日
分析者	石川 輝之

注記 JIS A 1481-1 は、市販製品中のアスベストの定性的分析に言及している。

この手法においては、分散染色と併用した偏光顕微鏡検査がアスベスト同定の既定手順である。

含有率約 5%未満の範囲におけるアスベストの含有率の正確な定量がアスベスト含有建材の法規制上の位置付け決定のために必要である場合は、JIS A 1481 規格群の別のパートを利用する。

分析結果

試料	アスベスト	推定アスベスト含有率 (%)
吹付けロックウール 灰白色半透明繊維状材料	無検出	—————

注記 1 推定アスベスト含有率は次の 5 区分で示す。

なお、この区分は概数であって、結果を説明する場合の目安として記載したものであり、特に③～⑤の含有率の範囲は、定量分析を行った結果、必ずその範囲に入ることを保証するものではない。

- ①無検出
- ②検出
- ③0.1%～5%
- ④5%～50%
- ⑤50%～100%

注記 2 報告区分”検出”は、分析中に繊維が 1 本又は 2 本だけ検出された場合、この観察は試料の意図しない汚染の結果であったおそれもあるため、結果報告の手段として設けられたものである。

注記 3 ”アスベスト含有”の場合、観察されたアスベスト繊維の代表的な写真を次頁に示す。

注記 4 使用した偏光顕微鏡：ニコン ECLIPSE LV100N

前処理法	酸処理
非アスベスト繊維	ガラス繊維、セルロース
コメント	特になし。

【試料採取履歴】

採取年月日	平成30年2月16日		
建材名称	吹付けロックウール		
建物、配管設備、機器等の名称及び用途	名称	県営鳴海住宅 0-1号棟	
	用途	仕上塗材	
施工年及び建築物への施工などを採用した年		1967（昭和42）年竣工	
建物などの採取部位及び場所	採取部位	既存-増築取合部 天井裏	
	場所	1階 103号室	
試料の概要 (形状又は材質、試料の大きさ)	形状又は材質	粒状	
	試料の大きさ	1cm ³ ～1000cm ³ ×1	
採取者氏名	一般財団法人 東海技術センター 岡崎・水野（範）		

注記 上記事項は、依頼書に記載された情報に基づき記載し、記載がない場合、「-」を記載した。



分析結果報告書

東海技水第 17121835-005 号

平成 30 年 3 月 6 日

愛知県建設部建築局公営住宅課

様

計量証明事業 愛知県知事登録 第262号
一般財団法人 東海技術センター
理事長 平井 修司
名古屋市名東区猪子石二丁目7-10番地
TEL (052) 771-5161(代) 〒465-0021

出張採取	(平成 30 年 2 月 16 日受入)		
試料の種類	石こうボード		
採取場所	県営鳴海住宅 0-4号棟 4階 408号室 天井		
採取日時	平成 30年 2月 16日	10時 55分	天候
採取者名	一般財団法人東海技術センター 岡崎、水野 (範)		

上記試料に対する分析結果を次のとおり報告します。

	分析対象	単位	分析結果	備考
1	石綿定性 (以下余白)	—	別紙参照	

[備考] 件名：県営鳴海住宅始め3住宅実施方針等検討業務

石綿（アスベスト）分析結果

【試料名】

石こうボード

【採取場所（採取部位）】

県営鳴海住宅 0-4号棟 4階 408号室 天井

【分析方法】

JIS A 1481-1 偏光顕微鏡によるバルク材中のアスベストの定性的判定方法

JIS A 1481-3 アスベスト含有率のX線回折定量分析方法

注記1 分析対象アスベスト種：クリソタイル、アモサイト、クロシドライト、トレモライト、アクチノライト、アンソフィライト

注記2 JIS A 1481-3による定量分析は、JIS A 1481-1による定性分析の結果、“アスベスト含有”と判定された場合に行う方法であり、アスベストが含有していない場合、または定性分析のみのご依頼の場合は行わない。

【分析方法の概要】

①JIS A 1481-1によるバルク材中のアスベストの定性的判定方法の概要

アスベスト繊維の同定は、基本として次の分析順序で行う。

- a) 目視により試料全体をよく観察する。必要に応じて繊維を剥離又は分離する処理を行う。
- b) 調製した試料又は未処理の試料を目視と実体顕微鏡で詳細に観察し、試料の種類や前処理の必要性の有無を確認する。前処理が必要な場合は適切な前処理を行う。
- c) 次に、試料を実体顕微鏡で観察し、アスベストの可能性のある繊維を探して代表的なものを取り出し、PLM（偏光顕微鏡）用の標本を作製する。
- d) 標本をPLM（偏光顕微鏡）で観察し、形態、光学的性質からアスベストの同定を行う。
- e) この手順でアスベストが検出されなかった場合、又は試料から実体顕微鏡で確認できる大きさの繊維が見つからなかった場合は、無作為に分取した試料を用いてPLM（偏光顕微鏡）用の標本を作製し、実体顕微鏡では見えない微細なアスベスト繊維を探す。

②JIS A 1481-3によるアスベスト含有率のX線回折定量分析方法の概要

”アスベスト含有”と判定された場合、予想される含有率に応じて、一次分析試料を直接用いるか、定量用二次分析試料または定量用三次分析試料を作製して基底標準吸収補正法を用いたX線回折定量分析方法によって求め、アスベスト含有率を算出する。

※参考として、参考資料1にJIS A 1481-1の分析フローを、参考資料2に偏光顕微鏡によるアスベスト分析写真（例）を示す。また、参考資料3にJIS A 1481-3の分析フローを示す。

【測定結果】

アスベスト含有の有無	アスベストの種類	アスベスト含有率 (%)
アスベスト含有せず	—	—

注記1 アスベスト含有の有無の判定結果の詳細は、【定性分析結果の詳細】に示す。定量分析を行った場合は、その詳細を【定量分析結果の詳細】に示す。

注記2 定量分析を行わなかった場合は、アスベスト含有率の欄に「—」を示す。

【定性分析結果の詳細】

分析実施日	平成30年2月28日
分析者	石川 輝之

注記 JIS A 1481-1 は、市販製品中のアスベストの定性的分析に言及している。
 この手法においては、分散染色と併用した偏光顕微鏡検査がアスベスト同定の既定手順である。
 含有率約 5%未満の範囲におけるアスベストの含有率の正確な定量がアスベスト含有建材の法規制上の位置
 付け決定のために必要である場合は、JIS A 1481 規格群の別のパートを利用する。

分析結果

試料	アスベスト	推定アスベスト含有率 (%)
石こうボード 灰白色塗材、紙材、灰白色非織 維状材料、茶色半透明繊維状材 料	無検出	—————

注記 1 推定アスベスト含有率は次の 5 区分で示す。
 なお、この区分は概数であって、結果を説明する場合の日安として記載したものであり、特に③～⑤の含
 有率の範囲は、定量分析を行った結果、必ずその範囲に入ることを保証するものではない。

- ①無検出
- ②検出
- ③0.1%～5%
- ④5%～50%
- ⑤50%～100%

注記 2 報告区分” 検出” は、分析中に繊維が 1 本又は 2 本だけ検出された場合、この観察は試料の意図しない汚
 染の結果であったおそれもあるため、結果報告の手段として設けられたものである。

注記 3 ”アスベスト含有” の場合、観察されたアスベスト繊維の代表的な写真を次頁に示す。

注記 4 使用した偏光顕微鏡：ニコン ECLIPSE LV100N

前処理法	酸処理
非アスベスト繊維	セルロース
コメント	特になし。